学校だより

大津市立葛川小中学校

平成２８年２月号

五色百人一首　全校で白熱！

私は小さい頃、正月には家族で百人一首をしました。４人兄弟の末っ子ですから、兄姉や大人たちには太刀打ちできません。そんな中での奇襲作戦は、これだけはという札を１枚持つことでした。それが、蝉丸の詠んだ、「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬもあふ坂の関」でした。いわゆる私の十八番（おはこ）です。

ところで､五色百人一首というのは､２０枚がセットで､取り札に青、黄、緑、オレンジ､ピンクの５色の色分けがしてあります。１月２８日（木）に、全校児童が学年を配慮して２つのグループに分かれ、その中でトーナメントによる試合を行いました。読み手の先生は、かなりのテンポで読まれますが、上の句の頭の部分を聞いただけで、「ハイ！」と自信ある声があがり、勢いよく手が伸びます。２０枚取るのに、２～３分という早業。個人差はありますが、どの児童もしっかりと歌を覚えて試合に臨んでいることが分かります。小学校の保護者には、目の前で子どもたちの熱戦を見ていただきました。

どうして、ここまで盛り上がるかは、その取り組みにあります。始まりは５年前にさかのぼります。継続は力なり。今年も１１月中旬から、朝の「すくすくことば」の時間に１０回シリーズで取り組んできました。年が明けた頃には、子どもたちは、すっかり百人一首モードに入っていました。このように、毎年積み上げていくことで、子どもたちの中に、やる気と自信が生まれるようです。

スノーバトル、復活か？！

２０年近く前に葛川の活性化をねらい、スノーバトルという競技が､滋賀県の伊吹町というところから持ち込まれました。スノーバトルとは、雪合戦を競技化したものです。当時、葛川体育協会の若者たちの間で火が付き､全国大会にも出場されていました。本校でも数年前まで、体育の授業でも行われていましたが、近年の雪不足と指導者の関係で、ユニホッケーなどの別の冬スポーツにシフトしてきました。しかし､北部体協主催のスノーバトル大会には､小学生が参加してきました。練習せずの参加なので、十分に力を発揮できないで終わっていました。

それを見かねた体協の方から声がかかり、今年は練習をして、試合に参加させようということになりました。試合までに、体協の方から２回指導していただきました。写真は１回目の練習風景です。コートは前日にあらかじめセットしていただき、当日はグラウンドの雪を固める作業から、ゲームのルール、そして実践的な練習と効率よく指導していただきました。初めての子どもたちも、ゲームの楽しさを味わい、興味が持てたようでした。

残念ながら、今年は暖冬で、グランドの雪をあっという間に融かし、２回目の練習は体育館ですることとなり、さらに大会は雪不足のために中止になりました。

しかし、今年のこの動きで来年はきっと、スノーバトル復活となると信じています。お世話になりました体協の皆様、本当にありがとうございました。

かやぶきの家で昔体験

小学３、４年生が「昔の仕事体験」というテーマで、かやぶきの民家と「杣の道」を訪問しました。かやぶきの民家では、地域の方から、①雨戸の開け方　②いろりの火つけ　③とちの実の皮むき　④火鉢でのもち焼き　⑤かやぶき屋根の「ひみつ」などについて教えていただきました。写真のように「いろりの火つけ」に夢中になりました。昔の人は、自然にある物を工夫して暮らしに利用していたことがわかりました。

うがい･手洗いで かぜ予防

市内の他の学校園ではインフルエンザのために学級閉鎖をしているところが多くありますが、ありがたいことに、本校ではインフルエンザの流行もなく元気に過ごさせていただいています。

学校でのかぜ予防の取り組みとしては、給食前の手洗いの徹底にあります。石けんで念入りに洗った後ペーパータオルで拭き取るようにしています。

また、小学校では長休みの後と掃除の後にお家から持ってきた水筒のお茶や用務員さんが用意してくださるお茶でうがいを実施しています。

まだまだ寒い日もあると思いますが、３学期を元気に過ごしてほしいと願っています。（養護教諭より）